

## 1 / 1 1 校長室より No.150

水曜日の1時間目は、原則全クラスが「道徳」の授業です。今日、1年生の題材は「**もったいない**」でした。下に教科書の一部を紹介します。

「もったいない」とは、物の本体を意味する「もったい勿体＝物体」のこと。「ない(無い)」は、それを否定したもので、本来は、物の本体を失うことをさす言葉でした。〈中略〉

しかし、何よりも「もったいない」という言葉の奥には「努力」や「苦勞」、「時間」や「歴史」など、せつかく積み重ねてきたことを「失ってしまう」「無にしてしまう」ことへの無念と悲しみがあるのです。

〈中略〉

「もったいない」に秘められたいちばん大切な心は、物を惜しむこと以上に、そのものを得るまでのさまざまな苦勞に対する感謝と敬愛の念なのです。まさに、日本人の美德である「もったいない」の心を、いま一度よみがえらせたいものです。 〈後略〉

道徳は、以前、資料の読み取りが中心になりがちでしたが、現在は「考え、議論する道徳」に変わってきています。1年生の皆さんは、身の回りの「もったいない」ということを挙げたり、「もったいない」について考えたことやこれからの生活にいかしていきたいことを話し合ったりしていました。

